

第15回成果報告会（オンライン開催）

日程：2022年3月5日（土）

時間：13:00 - 17:30

Zoomでのオンライン発表（発表と質疑応答全体で一般発表12分、学生発表10分）

時間	セッション名	講演番号	発表者（所属）	タイトル	発表区分
13:00-13:05	開会宣言：南齋勉（成果報告会実行委員長）、開会挨拶：三浦和彦（理事長）				
13:05-13:17	基調講演		鴨川仁（専務理事・事務局長）	2021年度夏季観測の総括	
13:17-13:27	大気を診る 座長：南齋勉	O-01	矢田茂久（東京都立大学）	富士山麓太郎坊での CO, O ₃ , SO ₂ の通年観測	学生
13:27-13:39		O-02	野村渉平（国立環境研究所）	富士山頂のCO ₂ 濃度とその観測機器の改良	一般
13:39-13:51		O-03	和田龍一（帝京科学大学）	2021年富士山頂と富士山太郎坊における窒素酸化物の計測	一般
13:51-14:03		O-04	米持真一（埼玉県環境科学国際センター）	大陸から富士山頂に運ばれた PM1の化学成分の特徴	一般
14:03-14:15		O-05	大河内博（早稲田大学）	富士山頂で空飛ぶマイクロプラスチックをつかまえる	一般
14:15-14:25	休憩				
14:25-14:37	富士山測候所 取材余話 座長：村田浩太郎	S-01	特別講演①	本年度も多くのメディアで富士山測候所での研究活動を紹介していただきました。その中で、取材の経緯やその後の反響など、ここだけのお話を関係者に伺う予定です。	一般
14:37-14:49		S-02	特別講演②		一般
14:49-15:01		S-03	特別講演③		一般
15:01-15:10			広報委員	Q&A、今後の出版等についてお知らせ	
15:10-15:15	小休止				
15:15-15:25	雲やちりを掴む 座長：加藤俊吾	O-06	王一澤（早稲田大学）	富士山で雲水化学を調べる：雲は大気環境を知るリトマス紙	学生
15:25-15:37		O-07	南齋勉（静岡理工科大学）	富士山で雲を直接サンプリング：一滴ごとの分析から何が見えるのか？	一般
15:37-15:49		O-08	三浦和彦（東京理科大学）	微粒子が気候を変える！—富士山体を利用したエアロゾルの気候影響の研究—	一般
15:49-16:01		O-09	村田浩太郎（埼玉県環境科学国際センター）	雲や雨の種になる粒子を探す—富士山頂での氷晶核観測2021	一般
16:01-16:11	休憩				
16:11-16:23	防災・すごい現象 座長：和田龍一	O-10	大河内博（早稲田大学）	富士山周辺で豪雨は増えている？：豪雨災害と大気汚染の気になる関係 ～2021年8月には「大気のカ」が富士山に大雨をもたらした～	一般
16:23-16:35		O-11	加藤俊吾（東京都立大学）	防災にむけた富士山での火山性ガスモニタリング	一般
16:35-16:47		O-12	長尾年恭（東海大学）	太郎坊における全磁力測定とそのデータ評価	一般
16:47-17:59		O-13	鴨川仁（静岡県立大学）	2021年8月18日富士山頂で発生した上向き雷放電前の高エネルギー放射線について	一般
17:59-17:11		O-14	鈴木智幸（静岡県立大学）	2021年8月30日首都圏で発生したブルースターターと富士山からの観測	一般
17:11-17:23		O-15	安本勝（富士山環境研究センター）	富士山体を検出器にした2021年夏期の雷現象観測と今後の指針	一般
17:23-17:30	閉会挨拶：加藤俊吾（学術科学委員会委員長）				